



月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

96.5.24 No. 4401

千葉労働を支援する 6・8東京集会へ

国家政策の大破綻 正念場の国鉄闘争

九六―九七年にかけて、国鉄闘争をめぐる情勢は、①、清算事業団二兆円もの借金が、国家財政を直撃し、政治体制そのものを揺るがしかねない、解決不可能な大問題となつていいること、貨物・三島の赤字問題などと、分割・民営化政策の手のつけようのない、しかし手をつけざるを得ない状況。②、清算事業団一〇四七名問題の未解決、動労千葉、国労の確固たる存在。③、JR総連・革マル問題。④、「大失業時代」の到来という

、政治・経済、体制全体の危機の深刻化・・・一切合財の問題がからまりあつて、再び大きな正念場を迎えていることは、この間、確認してきた通りです。分割・民営化というたいへんな国家政策の破綻という問題に、危機に瀕する日本帝国主義にとつて、どうにもならない問題としてあり、一方では、国労、動労千葉、戦闘的労働運動をめぐる攻防が最大の焦点となつていけるわけです。

全国的な 闘争体制を!

結論的に言えば、政府・運輸省も、JR当局も、JR総連・革マルも、ぎりぎりの瀬戸際にたたされた状況のなかで、結局「第二の分割・民営化攻撃」ともいふべき、大合理化と国労、動労千葉の組織破壊攻撃、解雇撤回闘争の解体に一切を転化するに唯一の出口を求めているのです。とくに、分割・民営化一〇年、「平成九年度問題」をめぐる危機の噴出は、JR東日本とJR東労組の癒着体制の矛盾・危機の噴出と増幅し合う

関係で、生き残りをかけた動労千葉、国労破壊への衝動を激化させていけるわけです。つまり、組織攻防戦が最大の焦点となつています。JR総連・革マルを先兵とした、国労・動労千葉破壊攻撃を粉砕することが勝利をきりひらく道です。

勝浦運転区廃止攻撃、公然たる脱退工作、国労の東京ベンディング等をめぐる事態、現場にかけられている攻撃を全労働者に徹底的に明らかにすること、「ワークシェアリング」「軍需

生産」「ナチス経済」・・・JR総連のファシスト労働運動に対する全労働者の怒りを結集することです。

この国鉄闘争をめぐる攻防を、物販の拡大、支援する会・支援基金運動の拡大、全国各地・中央での国鉄集会の開催などを

とおし全産別の労働者に訴えましよう。

きたる、六月八日、「動労千葉を支援する東京集会」が開催されます。この集いを成功させ、新たなステップとして、正念場の国鉄闘争を闘い抜く全国的な闘争体制をつくりだそう!

労組交流センター 五月合宿開催される

五月十八、十九日静岡県・河口湖において「第八回労組交流センター五月合宿」が開催され、安保・沖繩闘争と国鉄闘争について学習するとともに、物販闘争を全国的に展開して全国の労働組合に国鉄闘争への結集とJR総連革マル解体・一掃へ全力を傾注することが確認された。

合宿では、初めに鎌倉孝夫埼玉大学教授から「住専＝金融危機・財政危機―日米対立の激化―日帝の危機深化」と題して講演が行なわれた。バブル経済の崩壊から大不況、金融・財政危機に突入する中で労働者の生活が直撃されるとともに、日帝はアジアへの勢力圏拡大―侵略に

動きだそうとしており、これにたいして労働者がいかに闘うかが問われていると提起した。

つづいて三人の方から問題提起が出された。「労働組合とは―未組織化労働者との連帯・獲得を目指して」と題して東京東部労働組合の足立実氏、「分割・民営化十年総括」とJR総連ファシスト労働運動」と題して動労水戸の辻川委員長、「安保・沖繩闘争と破防法」と題して東京労組交流センター三角忠氏から

翌日は三つの問題提起を受け、分科会が開かれ、最後に代表運営委員である中野委員長がまとめを行い合宿は終了した。

不当労働行為の根絶！労働安全確立！ 全力でストライキ体制を!

6・5動労千葉総決起集会

18時から 千葉市民会館